

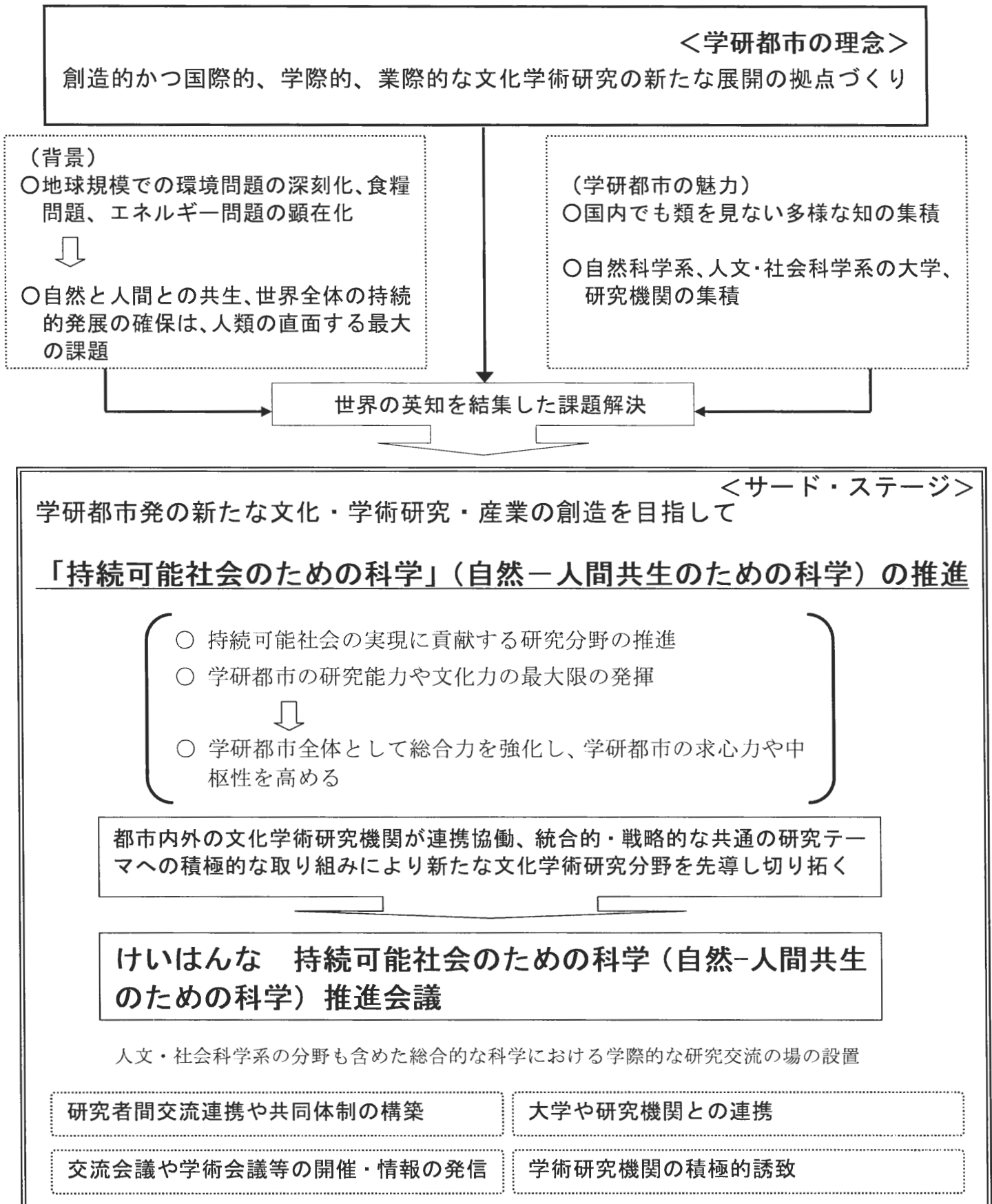
## 「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」(案)の参考資料

## 資料一覧

1. 「持続可能社会のための科学」(自然－人間共生のための科学)  
    について . . . 1
2. 「未来を拓く知の創造都市の形成」について . . . 2
3. 新たな都市運営の展開 . . . 5

# 「持続可能社会のための科学」（自然-人間共生のための科学）について

## ■ 「持続可能社会のための科学」の概念図



# 「未来を拓く知の創造都市の形成」について

## ～学研都市の目指す都市の概念について～

### 1. 恵まれた立地、世界のモデルとなる街づくりへ

- (1) 学研都市は、「豊かで多様な自然・緑」「我が国を代表する歴史文化」「大都市である大阪、京都に近接」等、極めて恵まれた位置に立地。
- (2) 恵まれた環境、ポテンシャルを最大限に活用し、学研都市として我が国を代表し世界のモデルとなる街づくりを目指すべき。

### 2. 学研都市の目指すべき都市像について

#### (1) これまで（セカンド・ステージまで）

「パイロット・モデル都市」として「文化学術研究活動の集積」と「住宅建設」を一体化した21世紀にふさわしい都市の建設推進。

#### (2) 今後（サード・ステージ以降）

居住者や立地機関が着実に増えていく中で、より都市住民・都市生活に焦点をあて、学研都市の目指すべき都市像として、以下の2点が実現される都市の形成、

すなわち「未来を拓く知の創造都市の形成」を目指す。

- ① 市民や研究者の知による生産や文化の創出が促進され、日々新しい価値が創造されていくこと。
- ② 先進的で自律的な「持続可能社会」での市民や研究者による住まい方、生き方が創造され、発信されていくこと。

(注) 知の創造都市について

「創造都市」については、C.ランドリーらにより提唱され、我が国では佐々木雅幸大阪市立大学大学院教授等により、「市民の創造的な活動に支えられ、文化と産業における創造性に富み、柔軟な都市経済システムを備えることによって、地球環境問題などの創造的問題解決を行える都市」と定義されてきている。

サード・ステージ・プランでは上記を参考に、「これからの学研都市の目指すべき都市」について、「市民や研究者の知による、生産や文化が創出され新しい価値が創造されるとともに、持続可能社会での住まい方や生き方が創造・発信される都市」として整理するもの。

### 3. 知の創造都市の形成に向けた方向性

#### (1) 都市環境・社会基盤等の考え方

- ① 施設立地や住宅・宅地の供給、周辺市街地の再整備にあたって  
・省エネルギー・省資源・ゼロエミッション等に配慮した低負荷型の街づくり、良好な住まい・街並みの実現
- ② 周辺の歴史、文化、自然環境との調和を目指した景観の形成
- ③ 実証実験や観光等、多様な主体による学研都市の創造の場の形成  
(フィールドの活用)
- ④ 公共交通重視の施策を総合的に推進

#### (2) 個人の住まい方、コミュニティ活動といったソフトな施策

- ① 自然と共生する住まい方の提案  
・周辺の豊かな山林や里山、田園環境について保全・活用を図りながら、自然と共生する人々の住まい方を提案  
・住まいの提案を地域に広く根付かせる市民活動の推進
- ② 研究機関と地域社会の交流を通じて、持続可能な社会のあり方を地域で議論していくなどの地域活動の推進
- ③ 公共交通重視に対する啓発活動の推進
- ④ 文化・学術研究・産業または市民・研究者等による重層的なネットワークの構築

#### 【参考】

##### (1) 「創造都市」について

創造都市とは、市民の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に、脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ都市である。

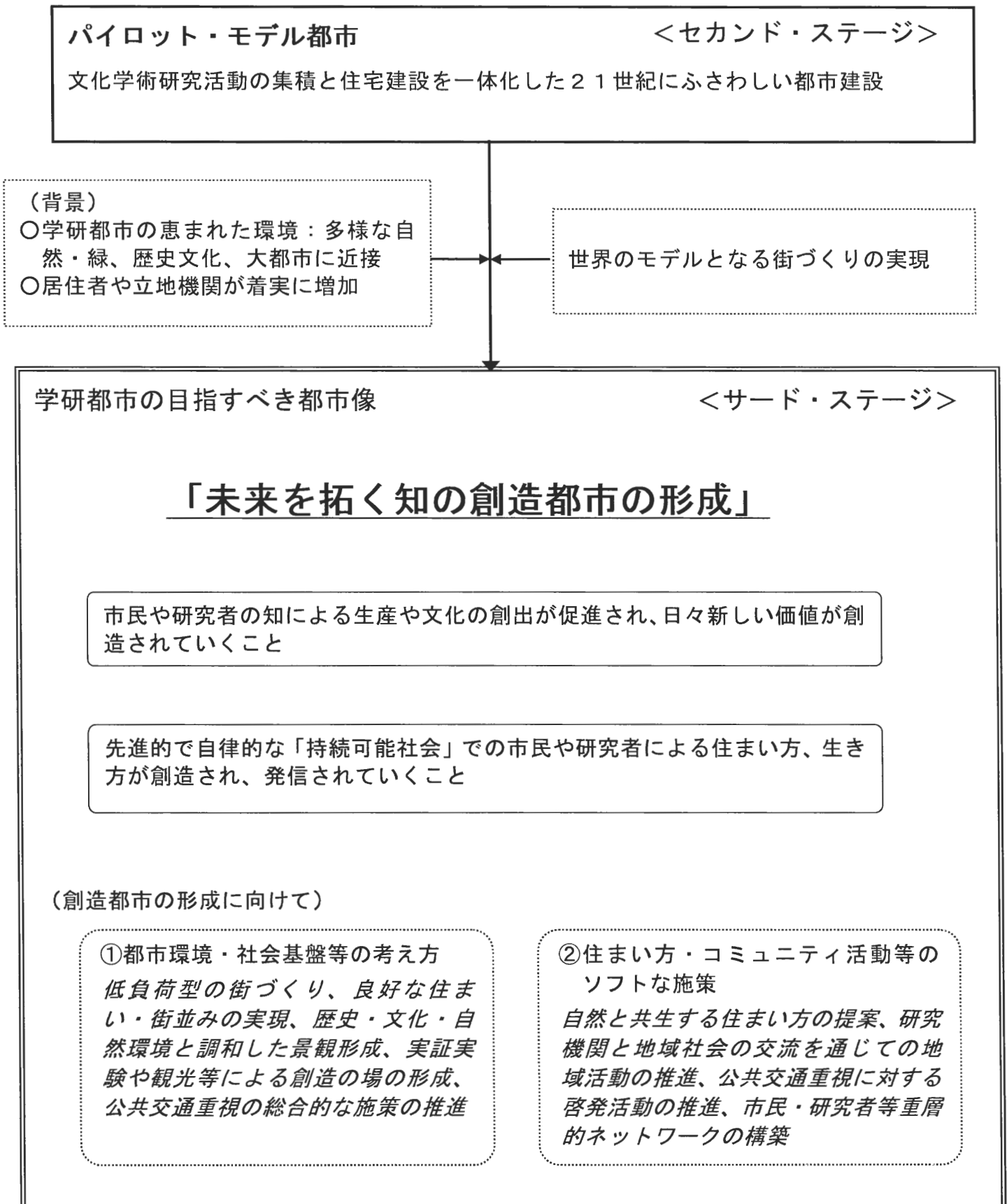
【参考文献：佐々木雅幸（大阪市立大学院教授）『創造都市への挑戦』】

##### (2) 「サステイナブルなまちづくり」について

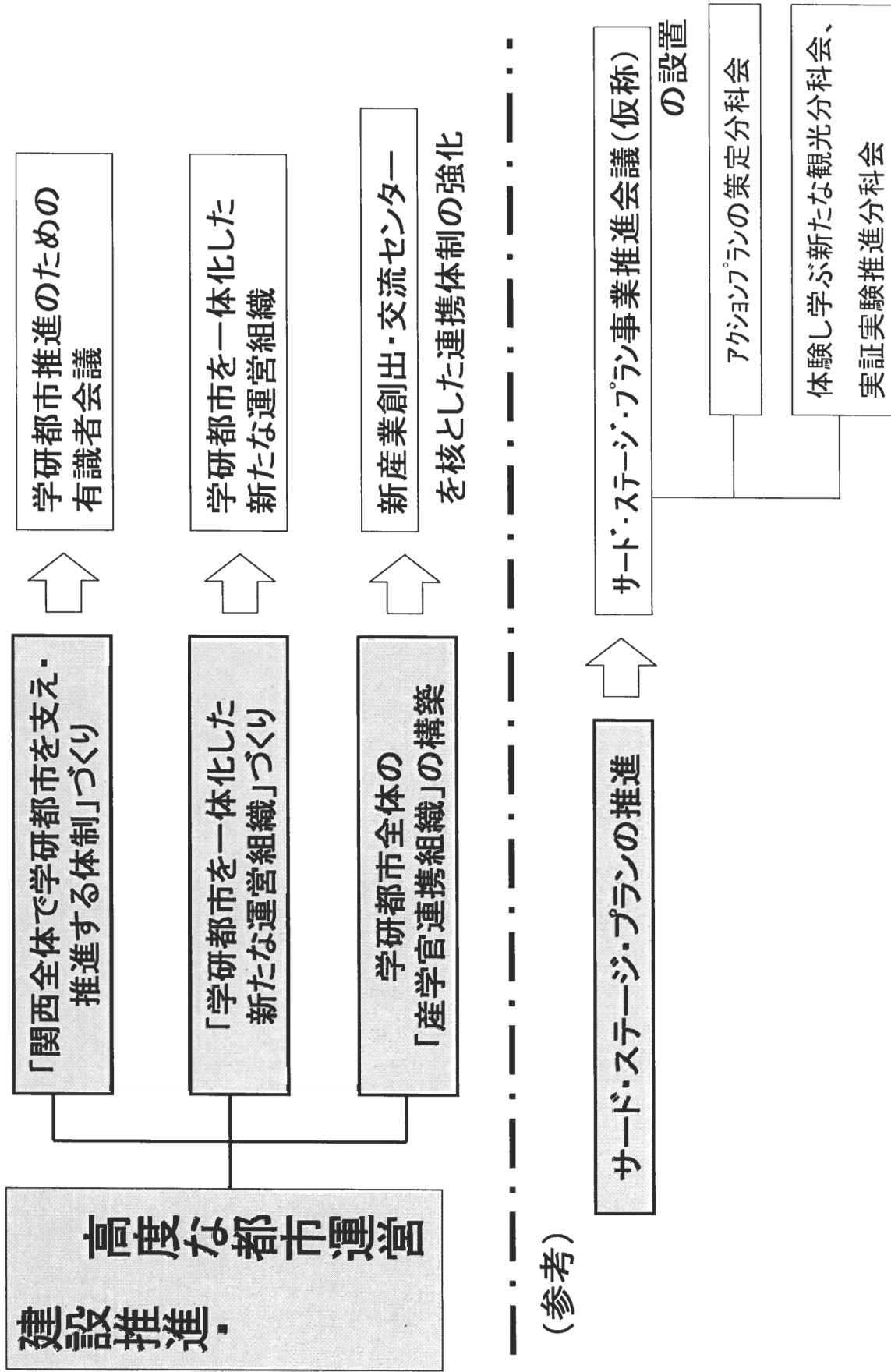
- ① 正義の都市：食物、教育、保健、希望がフェアに配分される。
- ② 美の都市：芸術、建築、景観がイメージをかきたて精神を高める。
- ③ 創造的な都市：開かれた心と経験が人的資源のポテンシャルを高めて変化にすばやく反応できる。
- ④ エコロジカルな都市：生態への影響を最小限にし、景観と市街地形態がバランスし、建物とインフラが安全で資源が効率的に使われる。
- ⑤ 到達のしやすさと移動性が高い都市：フェイス・ツー・フェイスでも通信手段でも情報がやりとりしやすい。
- ⑥ コンパクトで多中心（ポリセントリック）な都市：農村地域を保全し、近隣コミュニティが結ばれ、交流が高められる。
- ⑦ 多様な都市：幅の広い重層的な活動が活力を生み、活気のある市民生活を促す。

【参考文献：リチャード・ロジャース（英国建築家）『サステイナブルシティの特性（「小さな衛星都市のための都市」（1998））』】

■未来を拓く知の創造都市の概念図



# 「建設推進・高度な都市運営」への新たな展開



(参考)